

## さまざまな選択 その4

「こんにちは。」なつかしい笑顔である。少し背が伸びたようだが、誠実でまっすぐな雰囲気は少しも変わっていない。瑞陵高校1年のA君。先日、卒塾以来9ヶ月ぶりに顔を出してくれた。

「高校、すごく楽しくて充実しています。いい人ばかりで、本当に瑞陵高校に行ってよかったです。」私の目をきちんと見て、言葉を一つ一つ選びながら話す—やっぱり変わっていない。

本当に心の中が素直で、それをまっすぐに表現する男の子だった。彼の心の中が表れたこんなエピソードがある。中3の夏季講習でのこと。ご存知の通り、当塾の中3の夏季講習は確認テスト結果が全員張り出される。どんな結果であろうと同級生や後輩に見られるのである。かなりのプレッシャーがある。そんな中、一人の男の子が、みんなが合格し続ける中で初めて不合格点を取ってしまった。不名誉な不合格第一号である。明るくて優秀、だけどちょっと気の小さなその男の子は、廊下に張り出された表を見た後、バツの悪そうな顔で教室に入ってきた。顔を赤らめながら「案外、恥ずかしいものですね。」と私に話す。みんなから笑われているような恥ずかしさを感じていたのだろう。いつも冗談や自虐ネタでみんなを笑わせていたこの子は、実は見た目以上に繊細だったのだ。何とか笑ってやり過ごそうとしていたその時に、教室に入ってきたのがA君だった。A君と仲の良かったその子は、A君の顔を見るやいなや「やってしまった。」と笑いながら話しかけた。他の子なら一緒に笑ったりすることが多い。ところがA君はいつものすずしい表情を微塵も崩さず、「めずらしい。」とたった一言返したのだ。普段から塾の仲間みんなのことを「心から尊敬している。」と言っていた彼である。うそは一切無い。恥ずかしがっている気持ちを何とかしてやろうと思ったわけでもない。心の声がそのまま素直に出ただけだ。だが、言われたその子にとっては最高に温かい言葉だった。自分を認めてもらっていることがわかったのだから。一瞬で安心した表情になり、それ以後何も言わなかった。

A君の正直さは、心の中が美しいが故に人を幸せにする。彼の言葉はまっすぐに相手に届く。A君が瑞陵高校を選んだのは、今の自分をもっと成長させたい、大きく変わりたいと思ったからだ。自由な校風の学校で、強制されるのではなく自主的にいろいろなことにチャレンジしてみたい—そんな強い意志があったのである。勉強面での不安も努力で超えていく覚悟を持った。

「先生、2学期までの成績表です。」と、彼が見せてくれた一覧表には、彼の言葉通り、努力によって超えてきた跡がしっかりと記されていた。塾にも行かず、自主的に勉強した結果である。自分の素直な心に正直に、彼は今も歩み続けている。自分自身をも幸せに導くはずである。